

条幅規定

準六段 川野 藍秀

一点一画を丁寧にも深く結体も良いが、やや落筆の高さや腕の振りが一定で線の変化不足を感じる。線の強弱、墨の潤濁、行の流れ(気脈)を加え、作品に存在感や生命感を加えてほしい。

条幅随意(臨書)

成家 木下 美鳳

濃墨で羊毛筆を用い、一点一画丁寧に構築された安定した線でもとめた腕は、さすが成家である。これからは、字形・大小・強弱・気脈にも神経を集中させ、正確な形臨を完成させるための拘りも。

条幅随意

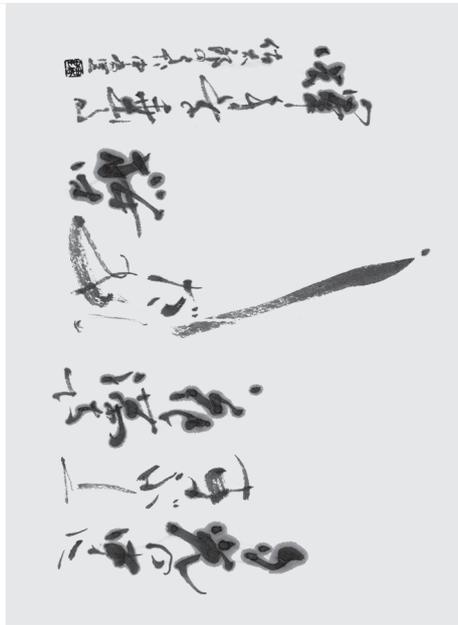
師範正 富松 玉圭

無理のないリズムに乗った自然な筆捌きで、まだ完成度は低いが、線に生命感があり、味わい深い作品だ。手本に捕らわれることなく、字典を片手にいろんな書風と工夫が今後の課題になろう。

半折 ½横

師範正 白石 青桃

淡墨的にはもう一步研究が必要だが、しだれ桜のその情趣を感じさせる作品構成は見事である。作品とは何かを感じさせてこそ芸術となる。感動と蓄えた経験値が、良い作品を生むと信じる。



半紙規定

準五段 山崎 灌月

若干の粗さも見えるが、リズムに乗った筆勢が作品に躍動感を与え、一気呵成に書き進んだ澁みのない線に魅力を感じる。コロナ禍で書くことの楽しみが伝わってくる佳作。

半紙随意

師範正 川久保由香里

青墨で詩情を表現。静と動の多彩な線を縦横無尽に編み、情趣豊かな生命感のある余白の美しい作品構成。今一番油の乗った時期。最終段位を目指し挑戦しよう。期待大。

半紙随意(臨書)

成家 立谷 青霞

無理のない自然な筆捌きが、温かく艶のある深い線と洗練された造形美を生み、メリハリの利いた完成度の高い白眉な臨書作品となった。日々の努力と研鑽が実った一枚である。

小六 松本 涉
快晴

五年 玉置 藍
成長

しづく
斗愛

中一 吉岡 野乃
丸い地球

一年 黒谷 文香
地球

中村 美心
成長

よしの
土

吉岡 野乃
地球

高江 しば
調和

吉原 煌
快晴

尊一
原

まじせい
くろ

学生部条幅 (1/4)

中一 準六段 吉岡野乃香

基本の筆づかいがしっかりと身に付いた完成度の高い作品です。勉強や部活との両立は大変だと思いますがこれからも頑張ってください。期待しています。

渡辺 斗愛

小二 3級

のびやかな線です。どのよう書けています。むずかしい名前も漢字でしようずに書けましたね。今後さらに期待しています。

舟森 よしの

小三 準1級

形よくきれいにしっかりと書けています。全体のバランスもすばらしい。名前もとてもじょうずに書けています。

告野 尊一

小四 3級

大和きせい 小一 準8級
ほんしいっぱい にげんきよくと てもじょうずに かけています。 おしゅうじのた のしさがつたわ ってくるさくひ んです。

むずかしい課題でしたが、全体のバランスがよく、とてもじょうずに書けています。上位有段者に負けない力を持っています。

玉置 藍

小五 準五段

書き始めから名前まで集中力を切らさず形・バランスともにしっかりと書けています。今後、さらに期待しています。

中村 美心

小五 三段

ていねいな筆づかいで形よく書けています。名前をもう少し大きく書くとさらに良くなります。がんばってください。

吉原 煌

小六 六段

明るく伸びやかな線でもバランス良く書けています。名前もしっかりと書けています。さらに、上を目指してがんばってください。

松本 渉

小六 準四段

お手本をよく見て、書き始めから名前までとても丁寧な形良く書けています。この調子でこれからも頑張ってください。

黒谷 文香

中一 五段

勢いのある線です。伸びやかに書けています。字形・名前も見事です。さらに上段を目指して部活や勉強との両立、頑張ってください。

高江 しば

中二・三 特待生

リズムに乗った伸びやかな線です。作品をみるくまとめた点は見事です。日頃の熱心な練習の成果だと思えます。一般部へ挑戦を。

硬筆部最優秀作品

(4月末日締切分)

(坂元紫香先生評)

段級
氏名
あかるい あさひ
だ あいうえお
うたごえ うきう
ぎ あいうえお
やまたぎあやせ

段級
氏名
クローバーが青々と広がり、
わた毛と黄色の花の交ざ
ったたんぽぽが、点々のも
ようになつてさいている。
新納 真子

段級
氏名
作業をしていた牧場のおばさ
んが、手を止めて、春花に話
かけた。「この子、生まれたば
りなの。」名前、なんていうん
で、すか。思わず、春花はきいた。
松本 美菜子

段級
氏名
僕は駅とは反対方向の小さな駄菓
子屋に向かった。「いらっしやい」と
眼鏡をかけたおじいさんがすれ
た声で言うのに、「どうも」と軽く
頭を下げながら、お菓子を探す。
岩川 歩愛

段級
氏名
わたしたちも、
ゆれて おどりた
い。おどれば、雪
に 日があたる。
ともまつりか子

段級
氏名
クローバーが青々と広がり、
わた毛と黄色の花の交ざ
ったたんぽぽが、点々のも
ようになつてさいている。
松尾 恵大

段級
氏名
はっとしたのは、ばく発的な笑い
が去った後、律が急にひとみを陰
しくしてつぶやいたときだ。「ばく
晴れが好きだけど、たまには、雨も
好きだ。ほんとに、両方好きなんだ。」
伊東 美羽

段級
氏名
作家の三島由紀夫は若者に、「教師
を肉の馬鹿にすべし」と説いた。この世
に尊敬できる先生など存在しない、と
言ったのではない。先生は生徒に乗り
越えられ、べき存在だと言っている。
齋藤 一二美

段級
氏名
野ねずみたちは、目を
開けたりとじたりしな
がら、とくべつメソウの
雨の音につつまれた。
三年 河内美咲

段級
氏名
作業をしていた牧場のおばさ
んが、手を止めて、春花に話
かけた。「この子、生まれたば
りなの。」名前、なんていうん
で、すか。思わず、春花はきいた。
吉村 奏風

段級
氏名
僕は駅とは反対方向の小さな駄菓
子屋に向かった。「いらっしやい」と
眼鏡をかけたおじいさんがすれ
た声で言うのに、「どうも」と軽く
頭を下げながら、お菓子を探す。
藤木 美羽

段級
氏名
光太郎へ
在学勤務にはもう慣れちゃったが、
昨日、お父さんと畑で収穫した伊予柑を
送りませ。甘酸っぱい懐かしい香りは、仕事の
リフレッシュになるのですね、と思います。
外食ばかりです。バランスの良い、食事に
充分気を付けてください。
仕事、あまり頑張らずか、か、よう、
に、母より

書譜

やまたぎあやせ
小一 準6級
一じーじおてほ
んをよくみてと
てもじようずに
かけています。
このちようしで
これからもたく
さんれんしゆう
しまししようね。
友松りか子
小二 準4級
のびやかな線
マスいっぱい
元氣よく書け
ています。楽し
くおけいこして
いるようすが
にあらわれて
います。
河内 美咲
小三 準1級
お手本をよく
見て、正しく、
よく書けてい
ます。名前も
もじようず
す。名前も
次はペン
0.7mm)に
うせんし
うせんし

新納 真子
小四 準四段
ペンをじよう
ずに使って、
漢字と平仮
名のバラ
ンスもよく
名前のび
とまでのび
と書けてい
ます。さら
に上の段
目指しまし
よう。
松尾 恵大
小四 三段
一画一画、
お手本を
よく見て
と、上手に
書けてい
ます。ペン
の使い方も
すばらしい
です。この
調子でこれ
からもがんば
ってね。
吉村 奏風
小五 準四段
迷いのない
ペンの使い
方に日々
の努力が
感じられ
ます。書き
始めから
集中力を
切らずと
も完成度
の高い作
品です。

松本美菜子
小五 準3級
一字一字お
手本をよく
見て丁寧
に書いてい
ます。上
位有段者
に負けない
力を持っ
ています。
今後、さら
に期待しま
す。
伊東 美羽
小六 五段
漢字と平仮
名のバラ
ンスがよく
、明るく
さわやか
な作品です
。ペンを
少し軽く
握ると伸
びやすさ
が増す
でしょう
。期待しま
す。
藤木 美羽
中学 特待生
一点一画、
丁寧な線
で力強く
書けてい
ます。さ
すが特待
生の作品
ですね。勉
強と両立
を今後も
期待しま
す。

岩川 歩愛
中学 五段
明るく澄
んだ線
で書き始
めから
名前まで
集中して
書けた作
品です。お
手本の観
察力も見
事。この
調子で頑
張って下
さい。
齋藤 一二美
一般 準師範
お手本を
よく見て
、最後まで
気を抜か
ない集中
力は見事
です。今
後は自己
のリズ
ムを取り
入れ、さ
らに上位
を目指し
て下さい。
宮崎 茜霞
一般 五段
自然なペ
ン捌き
で筆脈、
気脈の
あるリズ
ムに乗
った明
るい作
品です。
今後は、
抑揚の
変化を
加味し
て書か
れるこ
とを期
待しま
す。